
蠅

まなつか

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蠅

【Nコード】

N8758Q

【作者名】

まなつか

【あらすじ】

俺はある日蠅と出会った。

蠅と俺との短い物語。

部屋に蠅がいる。

気づいたらそこにいた。

ブーブーとそこらを飛び回る。

「……五月蠅い」

俺は新聞紙を持ってきて蠅に狙いを定める。

するとまたどこかへブーブーと飛んで行ってしまふ。

エアコンの方へ行って吸い込まれる。

「おっ」

しかし、すぐにはき出された。

今度は俺のテキストの上で悠々と糞をしてやがる。

この場で仕留めてやりたいと思った。しかし、俺のテキストが汚れてしまふ。蠅の痕がついたテキストなんて絶対に使いたくない。

そして、もう確実に仕留められる状況になると俺は急に蠅を哀れに思う。

蠅は何の罪もない。ただ、この部屋に迷い込んだだけだ。

蠅にも親がいて、兄弟がいたのだろう。

……どれだけいたかなんて想像したくないが。

俺は手に持った新聞紙を下ろして蠅に話しかけた。

「明日になったら逃がしてやるよ。俺は別にお前を食べたいわけでもないしな。外行って自然のために糞でも浄化してこい」

蠅はしばらくブーブーと言っていたが、トイレに行っている間に影も形も無くなっていた。

蠅は何を思っただ加湿器の中に突っ込んでいったのだろうか。

翌朝加湿器の中で蒸されていた蠅を見て俺は理解できなかった。

……蠅の考えなんてそんなもんさ。

（後書き）

こんにちは、まなつかです。

久々に短編を書いてみました。

蠅がいたのでそれをもとに。

うるさかったですが、朝になって逃がしてやりました。
命あるものは大切に。

それではっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8758q/>

蠅

2011年10月7日23時46分発行